JSURP News ‘211201

発行：Jsurp 日本都市計画家協会
https://www.jsurp.jp/

今週の News

1. 「全まち 2020-2021in 大船渡」の報告
2. 194 回理事会(11/17)の報告
3. 地域デザイン研究会の活動報告
4. 女性とまちづくり研究会の活動報告

■「全まち 2020-2021in 大船渡」の報告

全国まちづくり会議 2020-2021 in 大船渡が、11 月 27 日（土）に、大船渡市で開催されました。コロナ禍により昨年は大会の開催を断念し、その代替措置として昨年 12 月から今年の 9 月までの 10 ヶ月間をかけて、全国 7 カ所で分科会（ウエビナー形式）を開催し、その集大成として「2 年がかりの全まち大船渡大会」を開催しました。

◆開催場所の概要

開催場所である大船渡市中心部に位置するキャッセン大船渡エリアは、震災で壊滅した中心部で土地区画整理事業（33.8ha）が行われ、そのうち JR（BRT）大船渡駅周辺に市有地約 10.4ha を集約して津波復興拠点整備事業を行い、「キャッセン大船渡」と命名して商業系街区群として整備されたものです。この街区群の整備・マネジメントにわたる一連の事業は、2017 年度の日本都市計画家協会賞まちづくり大賞を受賞しています。

◆開会/挨拶、オープニングトーク（10:00–10:30）

開会予定の 10 時より、JSURP 小林会長の開会の挨拶が行われ、続いて臂理事、神谷理事、渡会専務理事の 3 名によるオープニングトークでは、この一年間の分科会活動を振り返りつつ、その成果を受け継ぐこの全まちへの期待などが語られ、全まち大船渡大会がスタートしました。

◆セッション A（10:30–12:00）

セッション A では、キャッセン大船渡と熊本、真備、厚真をウエブで繋いで、石巻分科会の苅谷智大さん、大槌分科会の及川一輝さんの二人が進行役となって、石巻、大槌、気仙沼、熊本、真備、厚真、糸魚川の 7 分科会での議論の紹介、それぞれの地区の災害と被災の状況、地域コミュニティの状況、復興の状況などを語り合いました。

◆全まち特別賞（12:45 –13:05）

この賞は、今回の全まちのために設けた震災復興をテーマとする特別賞で、大船渡市越喜来地区の、浦浜・泊連絡協議会まちづくり委員会、甫嶺まちづくり委員会、気仙沼市大谷地区振興会連絡協議会・大谷里海づくり検討委員会の 3 団体が受賞しました。

◆セッション B（13:10–14:40）

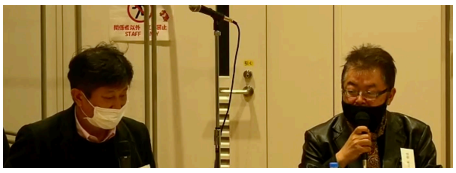
セッション B では、進行役の内山理事より、JSURP の復興支援 10 年間の活動の紹介の後、①復興事業による成果＝アセットの活かし方について、②地域にとって価値あるモノゴトが生まれ続けていくために、地域住民、プランナー、行政はどうしていくべきか？今後のまちづくりの体制について、の二つのテーマでディスカッションが行われました。

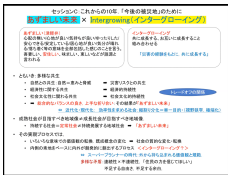
◆ゲストスピーチ（15:00-15:30）

15 時からのゲストスピーチは、大船渡市をはじめとして多くの被災都市・被災地区の復興に関わってきた北原啓司弘前大学教授の「―これからの 10 年、今後の被災地のためにーポスト復興をあずましい未来へ」。そして intergrowing（相互成長）からさらに、intercreating（相互創造）へと、新たな概念提起がなされました。

◆セッション C（15:30–17:00）

セッション C では「これからの 10 年、今後の被災地のために」をテーマとして、北原教授のスピーチを受けて「あずましい復興と intergrowing」についてディスカッションがされました。





◆被災地まちづくりトーク（15:30 –17:00）

サブ会場のキャッセン大船渡では、神谷理事のコーディネイトによって、被災地に関わる方々などによるトークセッションが行われました。

◆クロージング

クロージングでは、戸田公明大船渡市長からの講評を含む挨拶があり、最後に本大会の実行委員長である臂理事の全体講評ののち、本大会の各セッション等の結果報告が行われて大会を閉じました。

■194 回理事会(11/17)の報告

11 月 17 日に第 194 回理事会が協会事務所/ウエブのハイブリッド方式にて開催され、委任を含め 32 名が出席し会は成立しました。

主要な議事は、ビジョン・会員制度検討の中間報告、2021 全まち開催及び次年度について、事業戦略委員会、JANPIA 事業などの審議・報告が行われました。次回理事会は 12 月 15 日に行われます。

■女性とまちづくり研究会の活動報告

ー第１回女性とまちづくり研究会が開催されましたー

この研究会は、まちづくりにおける女性の課題や特性の活かし方などを話し合いながら、女性たちのネットワークづくりができないかと考え、設立しました。2021年６月から準備し、９月に準備会を開き、11月16日に第１回をオンラインで開催しました。当日は男性１名を含む14名の参加がありました。

まず、話題提供者として三浦由理さん（Knowledge Trust代表）より、「私たちの仕事場について話をしましょう〜まちづくりの現場から〜」と題して、ご自身のジェンダーの歴史や、日本の女性の仕事の現状がデータによって示されました。強調されていたのは、土木・建築・都市計画の学会に女性の会長や副会長がほとんどおらず、草の根まちづくりでは女性が先頭に立っている例もあるのに、学会が女性の支援の一助になっていないのではないか、ということでした。また、今年発表された「ジェンダーに対する国民の考え方調査」の内容も紹介されました。

これらを通じて、三浦さんはJsurpにおいて、（１）女性が職場や地域で活動する際に障害となっていることをオープンに話せる場をつくる、（２）女性が会員になりたくなる組織の環境風土をつくる、（３）女性（男性）が置かれている状況に合わせた活動を行う、（４）女性や若者などの活動を協力・支援していくため、会員がもつネットワークをJsurpの共有財産として、単体組織では難しい支援を行う、ということを提案されました。

その後、ブレイクアウトルームで２組に分かれ各人の状況を話し合いました。「社会（仕事）での男女格差は縮まってきていても、地域コミュニティでの男女格差が未だ大きい」、「女性の方がまちを使い倒している。商店街をあまり利用しない男性が中心市街地活性化基本計画を作るより、利用頻度の多い女性の視点も大切にしたい」、「昔からすると”女性だから〜”という状況は大分なくなり、働きやすくなっている。だからこそ、今何が課題なのかを見出しより良くしていきたい」などのご意見が出されました。

今後、２ヶ月に１回程度の開催を予定していますが、始まったばかりで、どのようなゴールを目指し、どのように進めていくかについては皆さんと相談しながら決めていきたいと思います。ですので、ぜひ、次回からご参加をお待ちしています。男性や会員以外の参加も大歓迎です。

この研究会の特徴の１つは、これまで数回行った運営会議も含め、すべてオンラインで開催していることです。仕事や家事・育児に忙しい女性にとって、これまで自宅でも職場でもないサードプレイスを持ちづらい状況でした。特に、夜間の集まりは子育て期の女性にとってハードルが高いものでした。しかし、オンラインが一般化して活動しやすくなっています。この状況が女性のネットワークの呼び水になり、世界経済フォーラムのジェンダー・ギャップ指数で2021年は120位だった日本ではありますが、社会が少しでも変わることにつながればと思っています。（佐谷和江）

■地域デザイン研究会の活動報告

コロナ禍で思うように研究会活動ができない中で、WEBを基本として細々と研究会を続けている。活動内容もほとんどが会員同士による事例報告をベースとしたディスカッションである。ところが、これが思いのほか面白いのである。その理由として、まず会員が実際に取り組んでいるまちづくり・景観づくり・デザイン形成などの取組内容が多岐に渡っており、それぞれの分野における最先端の話しが聞けることがあげられよう。さらに、コンサルタントとして活動されている方が多く、表に出る公表された事実だけでなく、取組過程における苦労や裏話、余談も含めた四方山話がふんだんにちりばめられ、聞いていて飽きの来ない話しが多い。事例報告でありがちな「良い結果」ばかりでなく、本音で話すことによって、悩みや反省点、予定していたができなかったことなど出し合うも魅力的だ。

閉じられたメンバーだけなので（それはそれで問題だが)、かなり突っ込んだ質問もできるし、実務者ならではのマニアックな問いかけも聞いているとなかなか楽しい。

前回は11月11日に静岡支部長の海野さんから静岡県下田市稲生沢地区で数年間に渡って取り組んで来た活動を報告してもらった。

温泉街でありつつ、知名度の低さから客足が先細ってきた状況を改善するために、温泉旅館と地域が協力した様々な取組を実践した事例である。例えば共通デザインの暖簾を制作する過程では、大変ご苦労されたようであるが、見た目も爽やかで、共通と言いつつ、細かい部分で旅館事の要望に応じたデザインを採用するなど、きめ細かい対応で地域デザインの向上に寄与している。もちろん、満足できないものもあったようであるが、それも地域にとっては財産となって次の展開に生きてくるであろう。

研究会では引き続き事例報告を中心に議論を行い、来年度にはコロナの状況を勘案しながらオープンサロンの開催、地方展開、全まちセッションの実施などに順次取り組んでいく予定である。（石川岳男）

■12月の予定

①12月４日（土）日本都市計画家協会賞審査会

②12月15日（水）195回理事会